



平成17年3月20日
 飯田 次所
 飯田 次所
 TEL. 3700-3657

多摩川を愛する会

私 池田良夫
 私たちの会は、多摩川が大好きな人たちが集まって30年前に出来ました。

あの子供の頃遊んだ綺麗な水辺を取り戻したい願いが、行政を動かして、企業を巻き込み、やがて、自然保護と環境保全のボランティア活動として、数々の実績をあげてきました。

夏の風物詩である花火大会も、清掃の人集めの手段として始めたものです。

灯籠流しや花火大会、翌日の河原の清掃大会で、トラック3台ものゴミが集まった昔が思い出されます。河原の掃除を「ラブリバ」にする日、とまで定着しました。

また、秋の縄草大会は、休めたゴミ袋と「ヤキイモ」を交換するユニークな行事から芋煮大会へと変わり、1000個のゴミ袋と1000杯の豚オヘと発展しました。

多摩川に清流を取り戻すまで、継続は力なりとのモットーで活動を続けてまいります。

多摩川で草野球

武井 博
 選層古稀でも多摩川で野球をやりたい爺さんが組織「世田谷コンドルズ」が誕生しまる一年。

親睦第一、病氣予防です。平均年齢65歳、ボールを打つ迫り汗の出る稽古中になり、酒が美味しい、よく眠れる等好評。

秋からは他チームと試合が組めるようになり2勝3敗、毎週水曜日で年中無休今年も1月5日より練習開始。

式々とした美しい多摩川のほとり若兵は集う。多摩川の空に輪を描く「コンドルズ」は、紅白戦が出来るように只今部員募集中です。

私と多摩川

母なる多摩川

源田吉

星谷幸雄

小学校入学頃の二子橋下は、川幅、水量、水深が十分あり絶好の水泳スポットでした。七、八月は私にとって無料水泳教室でもありました。近所のお兄さんが泳ぐ背中にならなう足だけを力エル蹴りして川の横断をくり返し、泳ぎを覚えました。

一人前になると憧れの赤フンとトマト一ツをおやつに平泳ぎに唐きをかけながら河原で感じた風と川の匂いを忘れられませんか。

春は桜、夏は花火、日曜日はショートコースでゴルフを楽しむ古神の今日まで、お世話になるばかりの多摩川は、私の母なる川なのです。

アド多摩

源田吉

高橋真一

スタートの合図と同時に一斉に沸き上がる歓声、イカダ下りに参加している選手、そして応援に来ていの子供達の真剣な顔、目はキラキラと輝いている。大会を運営することは大変なことではあるが、輝かしい瞬間を見ると、スタッフの一員であることに誇りを感ずる。夏のイベントとして認知されてきた「アド多摩」は、青少年委員、所轄の警察、消防署、小、中学校PTA、おやじの会等、多くの方々の協力で行なわれている。地域を活性化するには各自が関心を持つこと。出来ることから第一歩を。(アド多摩実行委員会)

多摩川の思い出

源田吉

金子倉一

私は太平洋戦争の頃小學校時代を過ごした。京西小學校は当時京西国民学校と呼ばれていた。

夏休みに入ると上級生や友達と何度も多摩川に泳ぎに行った。五川電車が瀬田から急坂を下りだし何となく心わく／＼。二子玉川の駅を降りて堤防の切通しを越え、河原の方から涼しい風が吹いてきた。

兵隊島のそばで泳ぐことが多かったが、水の量が多い時は流れが早く、泳ぎが上手になった様に錯覚した。今、二子玉川の駅の前から多摩川の景色を眺め、当時を懐かしく思い出す。

木洩れ日

飯田恭次

時の流れは本当に早い。今年は戦後六十年、戦いの頃の思い出の記が、それそれの体験を通じて新聞、雑誌に載っている。

昭和二十年三月から五月にかけて米軍機B29により東京大空襲、都心部は焼野原になってしまった。

戦局は日増しに厳しくなっていくが、時の政府は報道規制、国民には真実が知らされなかった。

本島、長崎への原爆投下、ソ連の参戦があり、じりじり真夏の太陽が照りつける八月十五日、太平洋戦争は終った。この日を境に、今後、日本は戦争をしない事を誓って誓った。

その後、戦後復興と高度経済成長の歩みの中で、大きいコトはいいコトだ、サラーリーマンは気楽な職業とされたモンダ、と肩を寄せ合い、焦頭志向の世の中が形作られて行った。

そして、今、気がつけば少子高齢化時代、家族も親戚も少なくなり、濡れ落ち葉に枯れ落ち葉、老々介護に一人暮らし、隣りは何をする人ぞ……と孤独な生活が忍び寄っている。

春が輝(こまめ)の歯軋(はぎ)りをしてるだけで世の中は変わらな。行政任せではなく身近かな町で、人と人との支え合いが必要な時を迎えている様に思う。



郷土紹介

純三子の花街

三子五川 金長 池田良夫

三子五川駅を西に出ると道路の向うに五川高島屋邸の新南館が見える。かつて五川郵便局があった所だ。左手の川淵不動産とゲームセンターとの間に五川三葉地の入口ゲートがあった。まずは見番（見番組合の事務を取り扱う）が右手の横丁にあり、現在の柳屋、国道高架下まで盛屋と待合が並んでいた。

三葉地として許可を得たのは昭和二年五月で、当初は五川屋七軒、五川十四人と記録されている。料理屋と食堂等の料理組合の方は約二十軒あったようだ。五川の五代は、二時間

三四五十銭、当時の五電が表谷二子五川間十六銭、ハイヤー賃切二円五十銭だったの、およその価格は想像してみてもいい。

目黒からの遠出だと五円加算だった様子なので大分割安になった。

見番の隣が八富川、角を曲がってへ山奈、通りに面してへ八の坂へ田毎（へ川崎家）へ正通家（へ新川崎家）が並んでいた。駐車場ビルに抜ける道にへ山水閣へ三升家へへとんぼへ多摩寺へへ幾き、現在の柳小路の近くにへ田川へ千代本へへ川柳へへ初夢へへ三好へへなどがあり、やがて新見番がへ陶の家へ隣の移っていった。



セブマイルズクラブ

三子五川 川辺義高

三子五川駅のホームから西側の富士山の方を見ると現在、高層マンションのタワーが建設中である。富士会館の跡地である。

かつて、この地に終戦後すぐに、米軍のリゾート施設である将校クラブが開設されていた。これが、セブマイルズクラブである。ジープが行き交い、白いヘルメットと巾の腕章の兵隊に、子供たちが



「ギブ・ミー・チョコレー」
「ギブ・ミー・チューインガム」
と、群がって、生まれて初めての英語「サンキューベロマッチ」

を覚えたものだった。

川向うの高津の交番の裏手にも、同じ様なダンスホール「リバーサイドパレス」があって、川をはさんでダンス音楽が飛び交っていた。

三鷹市にあったグリーンパークの将校クラブや、目黒の雅叙園、赤坂山王ホテルなどの米軍の慰安施設は、当時の日本人にとっては羨望の的であり、明るい照明と軽快なジャズミュージックなどは、アメリカ文化そのものであったと思う。

名称の「セブマイルズ」の由来が、どこからの距離であったのかは誰も知らない。戦後60年の歴史の中にすでに埋もれてしまっている。

(続)

わがふるさと用賀

用賀三吉 高橋晋二

私は用賀に生まれ育ち用賀を離れたことがなく、故郷といわれれば用賀と答えるほかありません。

昨今は用賀も住居地となり、土を見る所も少なくなりました。

子供の頃は我が家の縁側から多摩丘陵や大山の連山、富士山がくっきりと眺められ、三子五川の花火大会も見物でできたものでした。付近一帯は田畑が広がり、稲麦や西瓜、瓜、栗、柿など、栗初、野菜がどれたたかな田園地帯でした。小生の頃は夏頃から飛びたつ螢の声を聞きながら通学し、学校から帰ると用賀神社の境内で遠くまで夢中で

わが故郷

終戦を境に、町に笑顔が戻り始めました。十代の頃から勤め人だった私は、町の人とも疎遠となっていたが退職後はお世話になった町に、少しでも恩返しのできればと町の仕事を手伝っています。

昔と交わぬ心温まる愛情で「よっちゃん」とよちやんと呼び合う仲間と再び会うことができ、故郷の夜を過ごすことができています。今日の頃です。

又ボツト

催しもの

1. 三子五川はなみすきフェスティバル 4月29日(金) 兵庫島公園にて
2. 瀬田フラワーランドの集い 5月21日(土) 22日(日) 瀬田フラワーランドにて
3. 三子五川地区ふれあい広場 (新三子橋高架下) 4月15日オープン

お知らせ(用賀出張所より)

証明書、自動交付機が稼働開始しました。住民票の写し、印鑑証明書、納税・課税証明書の交付申請が簡単になり、手数料が50円お安くなります。

ご利用にあたっては、ご本人による暗証番号登録の手続きが必要です。

詳しくは、出張所にお問い合わせ下さい。

TEL: (0440) 69517



(高橋佳)